

かわさき GIGA スクール構想 教職員向けハンドブック

はじめよう

かわさき GIGA スクール構想

～ステップ 0・1～



川崎市教育委員会

はじめに 川崎の教育の充実に向けて

令和という新しい時代を迎え、世界は激動の渦の中にあります。2020年のスタートとともに吹き荒れた新型コロナウイルス感染症の嵐は、残念ながら、まだ静まる様子は見えません。

新時代は、「Society5.0」、「第4次産業革命」などの言葉に代表される今までとは違う世界になると言われてきましたが、感染症の拡大によって、無人化・自動化・遠隔化・キャッシュレス化、またテレワークなどが一気に進み、「将来なくなる職業」も相当な現実感を持って視野に入ってきたように感じます。そのように社会状況が加速度的に変化していく中、学校現場では、その変化への対応は遅れていました。

学校教育でのICTの活用について、本市では、平成24年に「川崎市教育の情報化推進計画」を策定し、ICT環境の整備等、教育の情報化の推進に関する各種施策に取り組んできました。さらに、平成29年には、これを発展させつつ、新たな時代の流れに対応すべく「川崎市立学校における教育の情報化推進計画」を策定し、計画を推進してきました。

しかしながら、令和元年12月に、国により「GIGAスクール構想」が打ち出され、さらに新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、1人1台の端末及び高速大容量ネットワークの整備が一気に実現し、令和3年度からの学習環境が大きく変わることになりました。この変化は、明治4年の学制発布以来の、日本の学校教育における最大の変化であると言えるかも知れません。

令和時代になり、新学習指導要領が順次全面実施される中、このような教育における劇的な変化を、社会の大きな変化とともに前向きに捉えながら、学校・教育の在り方そのものを見つめ直すなど、教職員も大きな意識改革をすることが必要です。予測困難な時代を生きていく子どもたちが、必要とされる力を確実に身につけていくために、1人1台の端末は多くの可能性を有し、個の支援、学びの保障につながるとともに、教職員にとっても業務の効率化が図られるなど、新学習指導要領が目指す目標を実現するうえで、大変大きな力となっていきます。これまで川崎の教育が積み上げてきた教育実践の成果の上に、ICTを活用した最先端の教育を取り入れ、そのベストミックスを図っていくことは、子どもたちの成長をよりよく支えていくことに確実につながっていきます。そのためにも、これまでの学校観・指導観から一度大きく離れて、新しい発想・考え方を積極的に取り入れながら、学校教育そのものを見つめ直してみることも必要だと考えています。

ICT環境の整備とその活用は、あくまでも手段であり目的ではありません。「全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学び」を実現し、また、特別な支援が必要な子どもたちの可能性を大きく広げていくという目的達成のための手段であり、重要なのは、これまでの川崎の教育が大切にしてきた、子どもたち一人一人を大切にする姿勢、よりよい授業や活動を作り上げていこうという思いです。

教職員一人一人が、そのことを決して忘れずに、本冊子を有効に活用しながら「かわさきGIGAスクール構想」を推進していただくことで、川崎の教育がより一層充実し、子どもたちが、持続可能な社会の創り手として、予測困難な未来を自律的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を着実に身につけていくことにつながっていきます。川崎の教育をさらに前進させるために、皆様の積極的な取組をお願い申し上げます。

令和3年3月1日

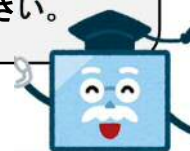
川崎市教育長
小田嶋 満

はじめよう かわさき GIGA スクール構想 目次と概要

川崎の教育の充実に向けて 1

学校に 1 人 1 台の端末がやってきた。何から始める？ そんなとき参考にできるよう、

- ① 端末の最大限の利用 ② 各学校の取組をある程度揃える ③ 3 年かけて完成を方針とした「かわさき GIGA スクール構想」の冊子を作成しました。ぜひご活用ください。



1. まず知っておきたいこと 4

- (1) GIGA スクール構想とは 4
- (2) かわさき GIGA スクール構想とは 5
- (3) 令和 3 年度はここまで使ってみよう 7
- (4) 学習の基盤となる情報活用能力について 8
- (5) 情報活用能力チェックリスト 9
- (6) GIGA スクール構想推進計画シート 16
- (7) 1 人 1 台端末を活用する前に 17
- (8) GIGA 端末使用の約束 18
- (9) 端末・校内ネットワークについて 20
- (10) アカウントについて 23
- (11) 端末の使い方 25
- (12) G Suite for Education の使い方 33
- (13) ミライシードの使い方 46
- (14) 情報モラルについて 53
- (15) 健康に配慮した端末の使い方 57

令和 3 年度の取組の目安はステップ 0・1。そのためにまず知っておきたいこととして、GIGA スクール構想とは？アカウントって何？といった基本知識を掲載しました。学校教育目標に基づいた「かわさき GIGA スクール構想」の計画ができるよう、情報活用能力チェックリストをもとにした計画シートも掲載しています。

端末の使い方や、Google for Education、ミライシードの基本的な使い方についても載っています。

2. 教科等の学びにつながる 59

- (1) 初期段階の指導 59
- (2) 各教科等での活用例 64
- (3) かわさき共生＊共育プログラム 92
- (4) プログラミング教育 99
- (5) ステップ 2・3 104



令和 3 年度は、小学校は 1 日 1 回、中学校は単元で 2 割くらいを目標に、端末を使ってみましょう。まず、使ってみることが大切です。各教科等での活用例を参考に色々な場面で端末を使って授業をしてみてください。

しかし、その前に！ 端末を 1 つの文房具として使えるようになるためには基本的な操作の知識・技能を身に付ける必要があります。まずはそのための初期指導から取り組んでみましょう。

3. 業務の効率化につながる 106

- (1) 児童生徒や保護者への連絡 106
- (2) 研修等における GIGA 端末の活用 108

「紙からデジタルへ」…それは、業務の効率化にもつながります。まずは、学校アンケートを「フォーム」で実施してみましよう。学校説明会等での動画配信もおススメです。

4. 個の支援につながる 110

- (1) 特別支援教育と1人1台端末 110
- (2) 日本語指導が必要な児童生徒への支援 114
- (3) 不登校児童生徒への支援 115



個別最適化を目的として打ち出された GIGA スクール構想。特別支援や不登校等、児童生徒のニーズに合わせた支援が可能となります。個別の指導計画への反映や不登校児童生徒との連絡など具体的な支援方法例を掲載しました。

5. 学びの保障につながる 118

- (1) 臨時休業時の学びの保障 118
- (2) 教育情報化推進モデル校の取組 128

課題の提示例や機器貸出について掲載しました。モデル校の取組も参考になります。

6. 管理・トラブル 132

- (1) 組織と研修 132
- (2) 端末の管理 134
- (3) 端末が壊れたら 136
- (4) 故障かなと思ったら 138
- (5) GIGA 用語集 141
- (6) 参考文献 142

「端末はどうやって管理すればよいのか」「故障かなと思ったらどうするのか」等トラブルシューティングを掲載しました。また、研修計画等についても載っているので、今後の学校での取組の見通しをもてます。

終わりに 143

令和3年度の合言葉は「とにかく使ってみよう」です。導入に際して、指導者は慣れない機器にとまどい、時に「端末を使わなくても授業はできる」「タイピングしなくても手書きで書けばよい」と考えたくなるかもしれません。しかし、Society5.0の時代を生きる子どもたちにとって端末とその操作は必要なアイテムでありスキルです。そのため「かわさき GIGA スクール構想」初年度は「効果的に使う」ではなく、「とにかく使ってみる」ことを大切にしていきたいと思います。きっと令和4年度が全く違う世界になっていきます。